未来都市創造に関する特別委員会行政調査報告

未来都市創造に関する特別委員会　委員長山本のりかず

■令和 4 年 12 月 12 日(月)

1、時間場所

午前：広島電鉄株式会社本社にて

2、調査項目

(1) 「広島版 MaaS「MOBIRY (モビリー)」について

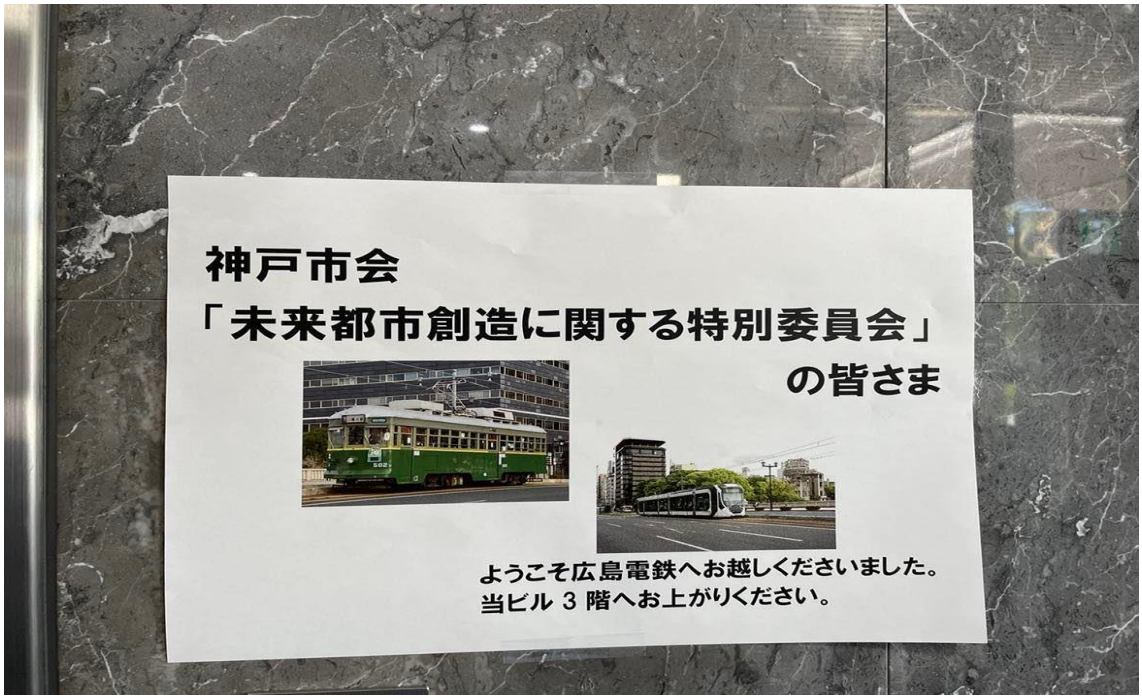
(2) 「街のガイドブックアプリ ekinote (エキノート)」について

(3)「 被爆電車運行プロジェクト」について

3、委員長所見

(1) 「広島版 MaaS「MOBIRY (モビリー)」について

広島電鉄では、MaaS(マース)の取り組みとして、スマートフォンで乗車券を購入・使用できるデジタルチケットサービス「MOBIRY (モビリー)」を開始。前提として、Maas(マース)とは、「Mobility as Service」の略で、従来の交通手段・サービスに自動運転や AI などの多様なテクノロジーを掛けあわせた次世代の交通サービスをいう。チケット購入に際しては、インターネットにてエリアごとにデジタルチケットを販売しており、クレジットカード決済を完了すれば購入することができます。利用する際は、携帯画面上の乗車券を乗務員に提示すれば、降車できる仕組み。



※広島電鉄本社にて、民間取り組み事例を調査研究

神戸市交通局では、IC カード「PiTaPa」を中心に IC カードの普及促進を取り組んできた。加えて、他社鉄道連絡 IC 定期券の発売範囲の拡大、市バス交通系 IC カード全国相互利用サービスの開始などを進めてきたが、携帯アプリによる乗車券購入にまでは至っておらず、今後の検討課題であろう。単独でのシステム導入を図るよりも他社で先行している事例があるならば、共同利用で運用していく方法を検討することが必要です。

さらに、交通系 IC カードとマイナンバーカードを連携していくことで、カードの利便性が高まり市民サービスの向上につながっていくという自治体報告もあり、神戸市でも調査研究していく課題であると認識した次第です。

※広島電鉄本社にて、民間取り組み事例を調査研究

(2) 「街のガイドブックアプリ ekinote (エキノート)」について
2022 年に三菱電機株式会社が開発したガイドブックアプリ「ekinote(エキノート)」を担当者からリモートにて説明を受ける。広島電鉄株式会社とも協働で地域観光や DX(デジタルトランスフォーメーション)の促進効果を検証している。当該アプリは、全国約 9,100 の鉄道駅を起点に、様々な情報カテゴリーを一元化しています。

具体的には、交通・観光・グルメ・ショッピング・自治体情報等を一元化して、各駅や駅周辺の街の情報を提供するガイドブックアプリです。委員の方々も早速ダウンロードし、説明を受けながらアプリ確認している状況でした。駅の規模によっては、情報の多寡があるように思われるので改善の余地があると考えます。ユーザーにとっては、多くの情報を得ることができ、有用性を感じることができる一方で、自治体にとっては経済観光や地域振興に役立てることが期待できます。

神戸市においても、当該アプリの運用状況を見極めながら、今後の活用方法を検討していただきたい。

※ekinote(エキノート)のアプリ画面にて

(3)「 被爆電車運行プロジェクト」について
広島電鉄本社隣の敷地にある車両庫を委員全員で現場視察させていただき、新旧車両が入り混じっており、路面電車の歴史を感じた次第です。特に神戸市電から広島電鉄へ移譲された 2 車両(582 号、1156 号)が現役で走行していることに感激し、現場では 582 号が車両庫にあり、板張りの床が現存しており、当時の車両の雰囲気を再確認しました。
神戸市電は 1910(明治 43)年に開業し、内装も華やかで車体の塗装には珍しい緑のツートンカラーを取り入れ、「東洋一の市電」と言われました。しかし、車社会の到来を受け、1971 年（昭和 46）年 3 月に全線廃止された。広島電鉄は、29 車両を買い取り、広島市での神戸市電車両の運行が開始された。

現場では、各委員の皆さんが外観や内観を確認し、現場担当者への質疑を積極的に行い、神戸での市政に反映できる政策を思考している様子であった。

神戸市では、現 BRT(Bus Rapid Transit：2 連節バス)が走行しており、LRT(Light Rail Transit:次世代路面電車システム)の検討も進んでおり、今後の議会での議論も着目されます。

※神戸市電から広島電鉄へ移譲された 582 車両

■令和 4 年 12 月 13 日(火)
1、時間場所
午前：まちなか西国街道推進協議会にて(広島市)
2、調査項目
「西国街道の歴史と文化を活かした新たな賑わいづくり」について
3、委員長所見
政令指定都市である広島市の中心地である広島駅から、商店街や平和公園を通貫しているみちがあるにもかかわらず「街道らしいまちなみ」が存在せずに「見えない」街道となっていたと伺う。そこで、中心地の商店街店主らが集まり、2018 年に「まちなか西国街道推進協議会」が設立された。当該協議会が行政とも連携して、まちなか西国街道を「可視化」していっていることに感銘し、神戸市でもできるのではないかと感じた次第です。具体的には、歩いて見てわかる西国街道の取り組みとして、以下の事項があげられます。
①西国街道ステッカー(2017 年制作)：街道沿いの商店を中心に配布・設置。
②西国街道案内板(2017 年制作)：広島駅前に、西国街道案内板を設置。
③西国街道デザインマンホール(2019 年制作)：市立大学デザインで市が設置。
④西国街道サインボード(2019 年)：交通局が制作・設置。
神戸市においても、市民の方々にも認知していただき、西国街道の歴史的資源を活かしたまちづくりを行う上で、参考となり実行できる要素があります。

※まちなか西国街道推進協議会メンバーによる説明とステッカーを掲載

まちなか西国街道推進協議会は、広島駅周辺から八丁堀、紙屋町、平和記念公園をつなぐ西国街道を、後世へと伝えるべき文化と歴史を残す「まちなか西国街道」として、教育事業、賑わいづくり、周知事業などを行う市民団体です。その中で、次世代教育として出前授業を公立小学校で行っており、西国街道沿いを中心とした江戸時代城下町についての内容を子どもたちに授業しており、2022 年度は 5 校で実施。神戸市が実施している出前授業をホームページで確認すると、西国街道をテーマにした出前授業がないので、将来的に当該テーマでの出前授業を検討してみてはどうかと考えます。

また、毎年 3 月 15 日「西国の日」として「江戸時代の広島城下へタイムスリップ」をコンセプトに祭りイベントを開催。そして、2019 年には広島城への浅野家入場 400 年を記念した入場行列や時代行列を広島県と広島市で運営サポートした実績があります。神戸市内には、2022 年 11 月にオープンした兵庫津ミュージアムや花隈城などが多くの施設や歴史的資源がありますので、兵庫県と神戸市が一体となって「賑わい」を創出していかなければなりません。

※まちなか西国街道推進協議会メンバーによる質疑応答

■令和 4 年 12 月 13 日(月)
1、時間場所
午後：株式会社 NOTE にて(丹波篠山市)
2、調査項目
(1) 「地域に眠る歴史資源を活かしたまちづくり」について
(2)「各事業体の役割・取り組み」について
3、委員長所見
(1) 「地域に眠る歴史資源を活かしたまちづくり」について
広島の視察先から新幹線にて新神戸で降り立ち、バスにて丹波篠山市に到着すると、都会とは違う風景が一面に広がり、歴史的な雰囲気を感じる宿泊施設がありました。そこは、株式会社 NOTE が運営する宿泊施設で、当該会社の経緯は 2009 年に丹波篠山市で一般社団法人として発足し、「なつかしくて、あたらしい、日本の暮らしをつくる」という理念のもと、地域に眠っている歴史的建築物の再生を通じた地域おこしの取り組みを行っています。神戸の中心地とは風景が違うが、神戸市の北区や西区とは通じるものがある地域であります。施設内を実施視察しながら、各委員会からも積極的な質疑があり、私からも担当者に宿泊層の属性を確認すると、意外にも 20 代や 30 代の女性グループやファミリー層の方々も利用されていることを伺い、近代的なホテルに慣れ親しんでいる層の方々が、昔を懐かしく感じ、珍しい宿泊施設を肌で感じながら泊まっているのであろうことが推測されます。

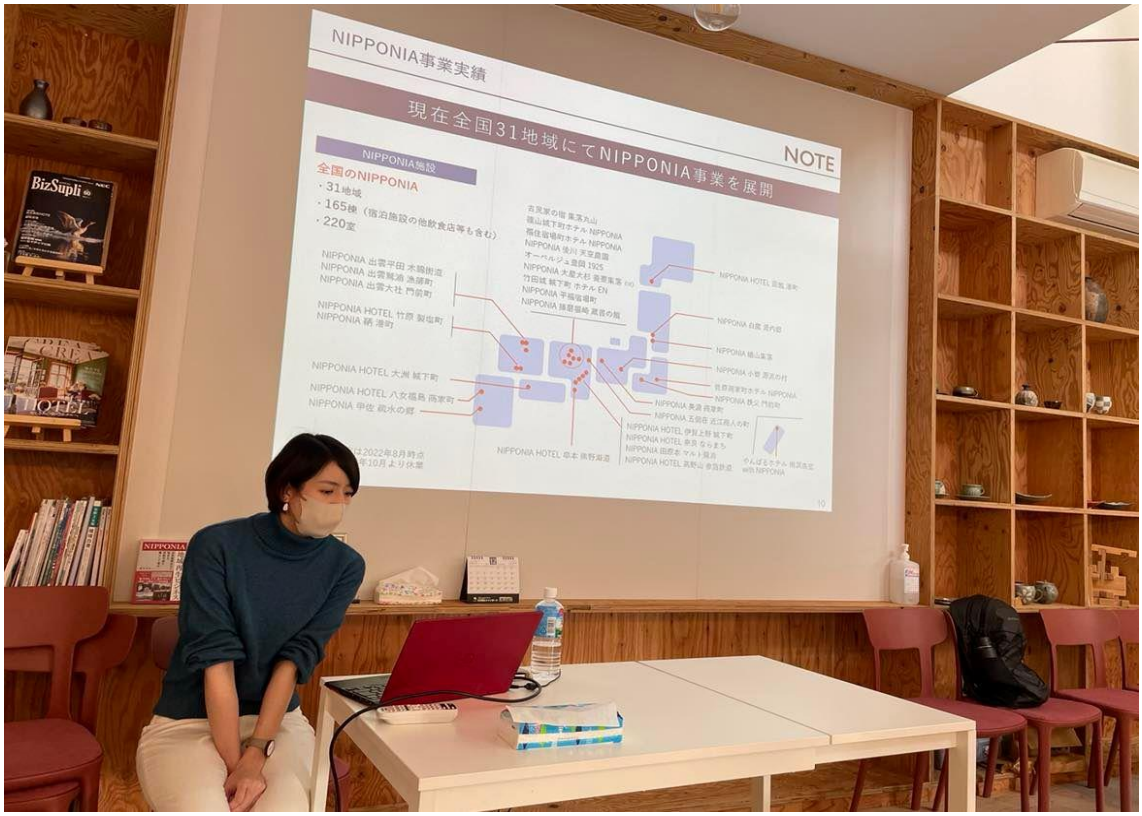
※NIPPONIA 宿泊施設の視察

(2)「各事業体の役割・取り組み」について

株式会社 NOTE は、古民家等の歴史的建築物の活用をしながら、その土地の歴史を活かして、宿泊者が宿泊・田舎体験・短期滞在・長期滞在するなど街全体を観光資源にする取り組みを行っています。

私自身 NIPPONIA の存在を知っていましたが、現在、南は沖縄から北は北海道まで全国 31 地域で幅広く展開されていることは知らなかったです。主に中山間地域や平地農業地域で事業展開されており、都心部は数が少ない印象です。神戸のような土地でも事業展開していただきたい意見が委員より出ており、将来的な可能性に期待をしております。里山地域に事業展開されているのであれば、地域の行事や村の清掃活動など都会にない活動に従事していく必要があるため、休日など都会に比べて自由な時間が取れずに、従業員の皆さんはどうしているのであろうかという質問を投げかけると、「弊社の従業員に応募していく方々はそのようなことも当たり前に参加している」との返答を受け、自然に地域に溶け込んでいるのであろうと考えた次第です。

地域が活性化していくためにも、地域外からの若い方々の力は大変貴重です。一時的な活性化に終わらずに継続して地域が活性化し、地域に根付いていくためには地域の方々と地域外から来た若い方々との協力関係は必須で、これから非常に大切な要素と考えます。株式会社 NOTE において、視察で調査研究したことを踏まえて、神戸の未来都市に委員会として、提言していきます。



※NIPPONIA 担当者による説明